



早期発見が大切 胃がんの予防と治療



胃がんは、日本では肺がんに次いで2番目に死亡率が高く、死亡数も男性で2位、女性で3位と男女ともに多い悪性腫瘍しゅようです。早期胃がんのうちでも、胃のごく浅い粘膜内にとどまるものであれば、内視鏡治療(胃カメラでの手術)による完治が可能です。胃壁に深く広がっていくと外科手術が必要になります。さらに転移や再発など進行した場合合は根治が困難となり、抗がん剤治療や免疫療法といった化学療法が必要になります。

近年、治療技術の進歩により、早期胃がんは内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が普及し、多くの専門病院で治療が可能です。内視鏡治療の最大のメリットは、腹部に傷が残らず治療後に胃がほぼそのまま残るため、術後早い時期に通常の食事を取ることができ、ふだんの生活へ早期復帰が可能です。

ただし、胃がんは早期に症状が出にくいので、早期発見には内視鏡検査が重要です。また、最も大きな原因はピロリ菌の感染であり、除菌治療で胃がんが予防できることがわかってきました。除菌治療は薬を1週間、飲むだけですので、ピロリ菌に感染している人にはお勧めです。

胃がんや内視鏡検査、ピロリ菌などでご不明な点があれば、近くのかかりつけ医や消化器病専門医に相談してください。